

人々が100歳まで“健康な脳”でいられる世界を目指して ～「脳の健康の見える化」による健康行動促進と健康産業活性化～

採択事業者名

BHQ株式会社

コンソーシアム構成員

京都大学 | 一般社団法人ブレインインパクト | 松前町 | 久万高原町 | 株式会社エフエム愛媛

R6年度用フォーマット



勉強会の実施概要

コンソ内部のみ		含む外部	
実施回数の累計	15回	実施回数の累計	7回
参加人数のユニーク累計	45人	参加人数のユニーク累計	189人

代表的な実施事例

狙いとゴール	本事業の進捗状況や成果を共有することで、自治体担当者が、自治体主催の健康関連イベントで、脳の健康状態を測定する機会を新たに住民に提供することや、地元企業が、脳の健康を高める商品・サービスを新たに開発・提供することを目指した。
実施の成果	自治体向け勉強会では、オンラインで個別に行い、3市町8名参加いただいた。企業向け勉強会では、SPC様主催イベントでBHQ測定を提供し、19社に紹介し6社に体験いただいた。
実施アジェンダ 協議内容	自治体向け勉強会では、自治体イベントへの次年度導入について協議を行った。企業向け勉強会では、次年度導入の可能性を協議を行い、その結果、BHQ測定を体験いただいた6社のうち2社より、トライアルの申し込みをいただいた。
参加者の一例	自治体向け勉強会は、内子町、東温市、伊予市に、企業向け勉強会は、株式会社SPC、ユタカ株式会社に参加いただいた。
次年度以降の 想定アクション	次年度も継続して勉強会を実施することで、愛媛県下の自治体や愛媛県の地元企業と連携拡大を図る。

編集データの抜粋やビジュアルなどを適宜挿入

外部向け企業勉強会(クイックBHQドック体験)

イベント	19社に案内	6社が体験	14人が体験
SPC様・ユタカ様			25人が体験
計			39人が体験



データ活用・協議の具体例

重要指標例

住民の脳の健康状態の向上(BHQ計測者数):クイックBHQドックによって脳の健康状態を手軽に測定できるようになったことで、MRIでの測定と比較して、多くの住民にリーチできるようになる
健康産業の拡大:クイックBHQドックによって脳の健康に注目する住民が増えることで、脳の健康向上に資する製品・サービスの潜在顧客が増え、産業拡大につながる

実装前

実装後

データ取得

- 自治体は、住民の「身体」のデータを取得する
- 企業は、「身体」の健康に資する商品開発のためのデータを取得する

- 自治体は、住民の「BHQデータ」を取得する

データ活用

- 自治体は、取得したデータを基に、新しい健康施策の検討を行う
- 企業は、取得したデータを基に、身体に健康に良い製品・サービスを開発する

- 企業は、住民のBHQデータを基に、住民の脳状態に適した脳の健康向上に寄与する製品・サービスを開発する

実行

- 自治体は、新たな健康施策を住民に提供する
- 企業は、身体に健康に良い製品・サービスを住民に提供する

- 自治体は、企業が開発した科学的根拠に基づく脳の健康向上に寄与する製品・サービスを住民向け健康施策としてリコメンドする

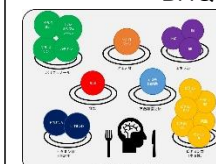
業務協議反映

- 自治体と企業がそれぞれ単独で住民の健康支援をしており、協力関係が薄い

- 企業は、リコメンドした製品・サービスに対する利用意向など、住民の声を企業にフィードバックすることで新たな製品・サービスの開発に活かす

代表的な実施事例

BHQレシピ開発ガイドラインβ版



愛媛BHQ弁当の試作

